

本所今昔物語 本所と水(11)

大平堤(3)小林六左衛門の活躍

今回は、大肝煎・小林六左衛門の尽力で建設された大平堤の話です。本所組の重要な用水であるここは、地籍は内町村(元町)、旧見附町、旧嶺崎村の入り込み地にある見附地方最大の堤です。

大平堤の完成

大平堤は享保15年(1730年)から2ヶ年をかけ、藩の管轄下で小林六左衛門(4代・六左衛門重昌)が中心となって本所組11ヶ村、延べ3,500人を動員して享保16(1731)年8月に完成させました。

田1町5反4畝25歩、畑1反2畝2歩を潰して、高さ2丈5尺、長さ52間の堤を築いたものです。貴重な農地をこれに充てたことから、藩はこの土地に対して税を免除し、本所組の村々は地主である旧見附町外2村に、毎年土地の借り賃として小作料を支払いました。

また、大平堤の維持管理は本所組が行い、記録によれば堤の管理のために「大平堤守(管理人)」を置いて、その報酬として年間米1石8斗を給したとあります。

後年、更に水が不足するようになり、大平堤の拡張計画が持ち上がっています。ただ、費用は本所組の村々で賄いきれず、藩も多額の費用負担をし、更に不足分を村松藩領内から御用金として調達し、藩の直轄事業として改修工事が完成しました。



静寂に包まれる晩秋の大平堤。

大平堤の問題点

大平堤の水利権(水を使う権利)は本所組にありましたが、所在地は組外の見附町組の地域(元町)にあることから様々な課題がありました。最大の課題は本所組までの用水路を持っていないことでした。そのため、見附町組の内町、見附、嶺崎の三か村の用水路を借り受けて落水しなければならないといった煩わしさと手間が掛かり、本当に必要な時に水が使えないということがありました。

そこで、旧来の用水路の外側の山裾、或いは田畑などを切り開き本所組が利用できる新しい用水路建設に着手したものの工事は捗らず、一旦完成したものの、その後二度にわたる破損があり、その手直し工事も慶応3(1867)年2月の破堤によって

再び修補の必要に迫られました。結局は実用をなさず、元の借江による通水のまま明治を迎えます。飛び地の大平堤から用水を引くことは本所組にとって大変なことでしたが、反面自分たちの土地を流れる用水を活用できない見附町組(元町)の農民の心境は複雑だったのではないのでしょうか。

現在の水路

現在、大平堤は刈谷田川土地改良区の管理下にあります。また、大平堤から直接流れ出る水路は無く、元町地区が管理する大谷堤に流れ、そこから用水路に流れ出るという変則的な形態になっています。

さらに用水は運動公園下、信号機のある交差点から左折、元町集落内をとおり原の湯さん、そこから道路を横断して見小、ネーブル見附方向に至るものと、元町地内で分岐して浄覚寺前で新潟村方面と元町地区の田んぼへと分かれます。

昭和2年に「昭和江」が完成してからは大平堤の用水は不要になり、昭和40年代になってから、刈谷田川土地改良区から見附市が観光目的に借用して「大平森林公園」として市内外から観光客を呼ぶ重要施設になっています。

大平森林公園は春から秋まで多くの来園者で賑わいます、しかしながら300年前に小林六左衛門という人物を中心に造られたということを知る人はいません。



昭和61年 県営ため池等整備事業竣工記念碑。本来ならばここに「小林六左衛門顕彰碑」が有るべきと筆者は思います。

表紙写真『スーイスイ』 2025.5.29撮影

本所北公園付近の水田で水草を食べる二羽のカモ(カルガモ?)の遊泳。

筆者の何時もの散歩道。去年までは休耕、飼料用米、大豆転作などの田が多くありましたが、今年は全ての田に稲(多分主食用米)が植わっています。

米不足、米価高騰の結果を反映したものですが、考えてみれば、当たり前の風景に戻っただけです。過度な生産調整の反省(国の)でしょうか。カモにとっても餌場が増えて歓迎ですね。

筆者としては、今年の豊作と農家所得の安定が願いです。この風景が何時までも続くことを願います。

発行元

新潟県見附市「本所1丁目町内会」
担当 野水英男 Tel.62-1542

かたくり 町内会だより 本所1丁目

2025年
(令和7年)

8

月号

2P 春のクリーン作戦実施

西地区こどもまつり開催

防災訓練実施

3P ゴルフ大会結果

見附市自治功労受賞者紹介

4P 本所今昔物語

春のクリーン作戦実施

4月13日(日)午前8時から本所会館を集合場所として春のクリーン作戦が実施されました。西コミ平賀大介会長の挨拶のあと、6人の区長の紹介があり、それぞれの区に分かれたごみ拾いに向かいました。



平賀会長のあいさつの後、各区長さんが挨拶されました。新区長さんの顔見世でもあります。

毎年参加される農家組合と有志の皆さん、特にごみが多い北部の水田地帯を担当されました。



天気予報は「朝から雨と気温が低い」との予報だったためか、参加者は102人(昨年164人)でした。実際は何とか雨は降らず、予定どおりイベントを終了することができました。参加された皆さんご苦勞様でした。

西地区こどもまつり開催



開始直前には会館の脇まで行列が出来ました。

本所親和会の役員の皆さんです。



5月24日(土)恒例となった西地区こどもまつりが本所会館で開催されました。今回は雨のため神社でのランタン飾りは中止となり、幻想的なランタンの風景を見ることが出来ないことは残念でしたが、開始1時間前から大勢の子供たちが訪れ大盛況でした。

防災訓練実施

6月15日(日)見附市総合防災訓練が北谷南部地区を会場に「土砂災害」を想定して実施されました。本所1丁目でも各区毎に一次避難場所への避難訓練が実施されました。

見附高校正面玄関に避難した4区の皆さん。



パネルで避難場所の説明をされる松井4区長。分かり易い説明でした。

4区松井区長は、「見附高校は私達4区住民の一次避難場所です。昨年、市と県が協定を結び、「避難所」として利用できるようになりました。場所は体育館が想定されますが、夏冬は決して住環境が良いとは言えません。豪雨災害で本所は比較的被害が少ないとされていますので自宅の状況を確認し、状況により自宅での避難も検討してください。」と話しておられました。

訓練日の明け方には激しい雨が降り、実施が危ぶまれましたが、午前9時頃には小雨になりました。

	一次避難場所	避難者
1区	県央メジカルセンター	50
2区	本所南児童公園	32
3区	コミュニティ広場	40
4区	見附高校	66
5区	本所北児童公園	42
6区	本所保育園	51

70代以上の方は記憶があると思いますが、翌日6月16日は「新潟地震」が発生した日です、何時来るかわからない災害に備えましょう。

町内会主催親善ゴルフ大会結果

6月1日(日)町内会主催ゴルフ大会が下田城カントリークラブで開催され、13人が参加されました。(上位5名・敬称略)

1. 香田和則、2. 岡田能隆、3. 樋口友夫、4. 近藤百合子、5. 小林克太郎

秋季大会予定 10月5日(日)、詳しくは幹事まで。
幹事 岡田能隆(63-1962)、渡辺茂雄(63-1821)
柴嶺哲(62-1874)

見附市自治功労表彰

毎年市に貢献した方々を顕彰する「自治功労表彰式」が3月20日アルカディアで行われ、本所1丁目から2人の方が受賞されました。お二方に話を伺いましたので紹介します。

さの もりとし
佐野 守利さん

「地域のつながりづくり、地域自治活動に貢献」
西地区スマイルコミュニティ会長として地域自治の伸展に寄与



佐野さんは1948年本所に生まれ、大学卒業後地元企業に就職、退職後1998年に「ふるまい」を起業。
2016年から2024年まで本所1丁目町内会長、2017年西地区スマイルコミュニティ創立に

合わせて初代会長に就任、2024年まで7年間務め、様々な事業を立案・実施することで「西コミ」を地域から認識される組織に育てられました。

(質問1)

西コミはゼロからのスタートで苦勞が多かったのではと想像いたします。何が一番大変でしたか。

(答え)

まず、地域コミュニティを理解している人、賛同している人が少なかったこと。大半が消極的、否定的であったことです。また、構成する町内会ごとに認識の差が大きかったことです。

(質問2)

本所1丁目町内会と重複する事業も多かったと思います。その調整はどのようにされましたか。

(答え)

質問1の環境の中で、「これはモデルケースを作らないと成功しない。幸い本所1丁目は、昭和40年代から1区から6区までを俯瞰した町内会というコミュニティが既にある。この役員たちを説得し理解してもらい西地区のモデル町内にして、地域全体に効果を広げよう」と考えました。この町内会の存在と役員の皆さんの協力は全体をまとめる大きな力と

なりました。そのランドマークが「ランタン・こども祭り」でした。

(質問3)

今後、西コミがどのように発展していけばいいと思いますか。

(答え)

今創立8年目を迎えていますが、地域内に理解は広がってきていると思います。これからの市政は、嘱託員制度と地域コミュニティの協力は回っていきません。行政にも改善すべきところは提言していますが、市民の皆さんがこの制度を、自らの市民生活をより豊かになるように、創意工夫をして活用していくことが発展につながると思います。

やまや はるき
山谷 春喜さん

「公選によらない非常勤特別職に10年以上在職」
学校医、介護認定審査会委員、国民健康保険運営審議会委員

山谷さんは、1960年嶺崎1丁目の医院の長男として生まれ、金沢市内の医科大学卒業後、同市内の病院勤務。1992年見附市立病院開業に合わせ内科医長に就任。1998年山谷クリニックを開業されました。



(質問1)

初診から大病院を目指す人が多く問題になっています。国では、かかりつけ医の受診を勧めています。先生のこれについてお考えは。

(答え)

現在、病院は機能によって分類されていて、高度な医療や救急を担う基幹的病院と、地域に密着して包括的ケアを担う病院に分類されています。

大病院の殆どが「基幹病院」で、「紹介状」を持参しないと別途料金が掛かることと、診察まで長い時間が掛かります。ですから体調に気になることがあれば、まずかかりつけ医を受診して頂きたいです。そこでは、必要に応じて基幹病院の紹介状を交付します。

(質問2)

本所で開業されて27年になります。現在では「地域のお医者さん」として皆さんから頼りにされる存在だと思います。健康で長生きするにはどうすればいいでしょうか。

(答え)

人生100年時代と言われる現在、健康で日常生活に制限の無い状態の「健康寿命」は女性74歳、男性72歳とされています。少しでも健康寿命を延ばすためには、日頃から健康に対する意識が大切です。そのためには生活習慣の改善が重要です。病気の予防、そして積極的に健康増進を図ることだと考えています。